

第2回

立川市長期総合計画審議会

令和5年11月23日

立川市総合政策部企画政策課

第2回立川市長期総合計画審議会会議録

開催日時 令和5年11月23日（木曜日・祝日） 午後2時30分～午後4時00分

開催場所 たましんRISURUホール 5階第2会議室・地下1階展示室

出席者 [委員] 朝日ちさと（会長）（注）、松浦司（副会長）、芦澤清八、片岡滋、川口哲生、甲野毅、小林優貴、篠原俊博、田所佳洋、辻本愛子、平澤豊、福永毅、萬田和正、宮本直樹（注）、森林育代（注）、大塚正也（注）
（敬称略）

（注）…市民ワークショップ兼務

[事務局] 渡貫泰央（企画政策課長）、矢島和晴（企画政策課連携推進係長）
中村真理（企画政策課連携推進）

1 報告事項

(1) 審議会委員について

(松浦副会長)

それでは第2回立川市長期総合計画審議会を開会いたします。

本日は審議会と市民ワークショップが同時開催となっております。朝日会長は市民ワークショップの運営に通年で講師として関わっており、本日もワークショップに参加しているため、朝日会長に代わって副会長の私が審議会の進行を務めさせていただきます。

本日の次第は報告事項2件の後、会場を移しての市民ワークショップ報告会意見聴取、その後、本会議室に戻り、再開後、審議事項1件を予定しております。

よろしく申し上げます。

それでは次第の1の審議会委員について、事務局から御説明をお願いいたします。

(渡貫企画政策課長)

こんにちは。

改めまして、事務局の渡貫と申します。

よろしくお願ひいたします。

今回の資料の確認をさせていただきます。

配付資料といたしまして、資料1、立川市長期総合計画審議会委員名簿、資料2、市民ワークショップについて、資料3、第1回立川市長期総合計画審議会議事要旨、資料4、第1回立川市長期総合計画審議会議事録となっております。

過不足等はございませんでしょうか。

よろしいですか。

それでは審議会委員について御説明を申し上げます。

資料の1を御覧ください。

今回、新たに学識を有する者といたしまして、立川市三師会から片岡先生、また、東京弁護士会から辻本愛子先生に御参加をいただいております。こちらにつきましては、市長のほうから、コロナ禍を踏まえて、そういった医療的なところで非常に経験をしてきたというようなこともありますので、そういう感染症を踏まえての御知見から意見をいただいたほうがよろしいのではないかと。

一方で立川市のほうも、これまでコンプライアンスということで、非常に、談合事件以降やってきてございますが、最近は事務ミスのなところも踏まえて、大きくコンプライアンスというようなことを取り組んでございまして、そういったところも強化をしていってはいかがかというような市長の思いがございまして、今回お二人に新たに委員になっていただいたといった経過がございます。

説明は以上となります。

(松浦副会長)

ありがとうございました。

それでは今回新たに委員になられましたお二人から、一言御挨拶をお願いします。

片岡委員、お願いします。

(片岡委員)

立川市三師会を代表しまして、片岡と申します。

よろしく申し上げます。

三師会は医師会と歯科医師会と薬剤師会の団体なんですけど、2年ずつ持ち回りでやっているんで、今は歯科医師会が三師会会長となっています。

よろしくをお願いします。

(松浦副会長)

よろしくをお願いします。ありがとうございました。

続いて辻本委員、お願いします。

(辻本委員)

東京弁護士会に所属しております弁護士の辻本と申します。

よろしくお願ひいたします。

弁護士登録をしてから、子どもの権利に関する委員会というところにずっと所属をしております。今年には弁護士会多摩支部のほうの委員長を務めて、やっております。今回、市長さんからいろいろとお話を伺ってというところで、入らせていただいたんですが、他市ではあるんですけども、いじめ問題対策委員会のほうに関わらせていただいたり、スクールロイヤーとして活動させていただいて、市教委の方と協働させていただいたりということで動いたりする部分もありますので、何かお役に立てることがあればと思って頑張りたいと思います。

よろしくお願ひいたします。

(松浦副会長)

ありがとうございました。

(2) 市民ワークショップについて

(松浦副会長)

それでは次第1の(2)、市民ワークショップについて、事務局から説明をお願いいたします。

(渡貫企画政策課長)

こちらの資料2のほうを御覧ください。

今日の審議会の予定といたしましては、前回も少しお話しいたしましたように、この後、今、地下1階で市民ワークショップを行っていますので、審議会の皆様にはその報告会のほうに御参加いただきまして、これまで市民の皆様が6回にわたって、ワークショップでいろいろ立川市の将来像について検討してきた内容について、その場で御意見をいただくというようなことを予定をしております。

市民ワークショップってそもそもどういったものなのかといったことを、私のほうから補足して説明させていただきます。

まず市民ワークショップの概要でございます。

今回、市民ワークショップの愛称といたしましては「立川そうぞう会議2035」です。この「そうぞう」というのは、想像、創造、騒々しいくらいの議論を！という3つの思いが込められた愛称です。「2035」は第5次長期総合計画の目標とする年を表しています。開催時期は、本年の6月から今日まで全6回を実施してまいりました。委員構成といたしましては、関係市民団体の方、または公募市民の方、また、公募だけではなくて無作為抽出の方、あとは大学生というような形で、当初は40名程度というような形で想定していたんですが、思いのほか公募の方、無作為の方も手を挙げる方がいらっしやいまして、現在

は49名でやっているといったところでございます。

ページをめくりまして、スライド番号2になります。

市民ワークショップの役割でございます。こちらは長期基本構想につながる市が目指すべき姿、また、基本計画につながる課題、必要な取組の方向性等について、市民同士で話し合うということになってございます。

その下のスライド番号3でございます。

市民ワークショップの位置づけでございます。下のほうの箱の中で庁外検討というふうになってございますが、点線の丸い枠で囲ってございます。これまで基礎的調査といたしまして、市政に関するアンケートや来街者意向調査を踏まえまして、市民同士による検討ということで、まず市民ワークショップが位置づけてございます。そのほかにも、直接市長が市民から意見を聞くタウンミーティングであったり、高校生によるワークショップ等も行っておりまして、その意見を踏まえて、この審議会で長期総合計画の構想等を審議いただくというような、あくまで市民ワークショップと、この審議会で議論いただく組上の参考意見として議論いただくというふうな位置づけで、これまで活動してまいりました。

スライド番号4でございます。

市民ワークショップの成果といたしましては、市民ワークショップの皆様にはこういったこととお話ししてございまして、今回、ワークショップを通じて班ごとに検討を作成した将来像、都市像、これについては、長期総合計画審議会や庁内の検討組織での議論の際に参考とするというような位置づけにしてございます。将来像というのは、今現在「にぎわいとやすらぎの交流都市、立川」というようなキャッチフレーズを持ってございます。この間お話しいたしましたけれども、その具体案として都市像が5つありますが、これを自分たちが考えるとしたらばということで、これまで6回にわたって市民の方たちに検討いただきました。

班ごとというのは、今回は7班形成しています。今回はAからG班がありまして、Aが一番若いグループ、大体大学生とか、そういったグループです。A、B班です。C、Dにつれて年代が上がってきまして、子育て世代であったり、あとは働き盛りのところとか、最終的には70代、80代のグループというふうになっていますので、そうすると班ごとに特徴がございますので、そういった点からも後ほど御意見のほうを市民の方と交わされると、非常によろしいのかなというふうに思っております。

次にスライド番号5でございます。

これまでワークショップにつきましてはどのような検討をして、経過でしてきたのかといったところでございますが、第1回はまず立川を知ろうというような形で、この間も審議会で少しお話しいたしましたけれども、人口の話であったり、あとは立川の特徴についてを、第1回でまずはお勉強をいただきました。第2回では立川を語ろうということで、立川の魅力であったり課題ということを、班ごとに非常に多くのものを出していただきました。

それを踏まえまして、第3回はその魅力と課題をもとに、立川をより良くするための魅力アップ・課題解決の取組のアイデアをだし、今後10年間を見据えて、どういったことが立川市の発展につながるのかというような視点で出していただきました。第4回ではそのアイデアを実際的に、文字を起こした場合についてはどういうふうになるのかということで、都市像、将来像を決めようということで、キャッチフレーズを班ごとにいろいろと検討い

ただきまして、第5回では、それを実際に人に見せる場については、どういうふうにアピールしていったらいいのかということで、検討してきたところでございます。今日は実際にその発表用のパネルのものを、市民向けに発表するというような機会となってございます。

ここにパネルセッションとありますが、パネルセッションってどういうものかといったところが、次のスライド番号6を御覧ください。

「パネルセッションについて」とあります。パネルセッションというと、なかなか言葉を聞いたことが少ないかと思うんですけども、話合いの成果をまとめたパネルを囲みながら、説明を聞いたり質疑応答する発表方法でございまして。特定の発表者を決めるのではなくて、全員が説明者となる形です。

パネルセッションに期待することということで、発表会と異なりまして、傍聴者が説明者に気軽に質問をすることができるために、多くの対話から相乗効果が高まり、新たな気づきやアイデアが生まれることが期待できます。これまでも立川市の市民ワークショップは、公共施設の再編もこういった形でやってまいりまして、非常に成果が上がっているということもございまして、普通の発表会とは違うんですけども、こういったパネルセッションを市では多用をしております。

そして本日の予定でございまして、この後、市民ワークショップの報告会意見聴取ということで、3時から3時30分というふうになってございます。先ほど7グループあるとお話ししましたので、30分程度で7つを回ると、4分程度じゃないと回れないという計算になりますので、ちょっと手短にいくのかどうか、その辺はまた、興味があるところについては皆さんにお任せをいたします。その後、こちらのほうの会場に戻ってきて、市民の意見について、少し御意見を交わしていただくというような予定としていただいております。

説明は以上となります。

(松浦副会長)

ありがとうございました。

今の説明について御質問等はありませんでしょうか。

(平澤委員)

ここにパネルセッションのいいねのシールがついているんですけど、これの回収というのはいつになるんですか。

(渡貫企画政策課長)

実は、こちらは実際に見ていただきまして、パネルセッションを見ていったときに、よかったところについては丸シールを貼るところがあるんです。

(平澤委員)

横に貼るんですね。

(渡貫企画政策課長)

貼る。それでまた。

(平澤委員)

4分でやんなきゃいけないんですね。

(渡貫企画政策課長)

はい。感想もここに書いていただいて、そこに貼っていくというような、そんな形なん

です。そこで実際に市民の方と対話をしていただくことを想定して、それを踏まえて、良かったとか、こういう意見が良かったねということ、この付箋に書き貼っていただくというような作業になります。それが最終的に市民ワークショップの報告会の結果ということで、次回の審議会のほうでもその結果をお伝えして、さらにまた御議論を深めていただくというような形を、段取りを考えているところでございます。

以上でございます。

(松浦副会長)

ほかに何かありますでしょうか。

(田所委員)

今のお話の関係で、全部回ってくださいということ、どこかでつかえる。

(渡貫企画政策課長)

いろいろな年代で分かれていますので、可能な限り見ていただくと特徴が分かるかと思えます。ただ、時間の関係もございますので、そこは皆様にお任せいたします。ぱっと見たときに、ここはよく聞いてみたいなというところがあれば、そこに時間を注力していただいても、それは全然構いません。

(田所委員)

それで時間を優先して、全部回ればいいんですね。

(渡貫企画政策課長)

また審議会でお話しいただくという形で。

(田所委員)

時間を、とにかく30分でその中でいろいろ回って聞くという。

(渡貫企画政策課長)

はい。

(田所委員)

了解しました。

(松浦副会長)

ありがとうございます。

ほかはどうですか。

なければ次に進めさせていただきます。

2 市民ワークショップ報告会意見聴取

(松浦副会長)

それでは、次第2の市民ワークショップの報告会意見聴取です。

事務局から説明をお願いします。

(渡貫企画政策課長)

この後、地下1階の展示室に移動いたしまして、パネルセッションに御参加をいただきます。3時30分にはこちらの第2会議室までお戻りいただけるようお願いいたします。この会議室につきましては施錠いたしますので、荷物は置いていただいて結構でございます。

それでは職員のほうが御案内いたしますので、御準備ができた方から出口のほうによりしくお願いいたします。その際、こちらのほうをお持ちに。

(事務局)

決裁板だけお持ちいただければと思います。

(渡貫企画政策課長)

お願いします。

(事務局)

エレベーターのほうで地下1階のほうに向かっていただければと思いますので、準備ができた方から移動のほうをよろしく願いいたします。

3 審議事項

(1) 市民ワークショップの意見について

(松浦副会長)

皆様、お疲れさまでした。

それでは、次第3(1)の市民ワークショップの意見についてです。

先ほどの市民ワークショップの報告会の意見をお聞きして、今後の計画策定に生かすべき意見等について、委員の皆様から一言ずついただきたいと思います。その後、他の委員の御意見をお聞きしての感想や御意見があれば、追加で御発言いただければと思います。なお、議事録作成の関係上、発言の際はお名前をおっしゃっていただくようお願いいたします。

それでは名簿順に御意見をいただければと思います。

では、まず芦澤委員、よろしく申し上げます。

(芦澤委員)

全体的に拝見し、自由な立場と発想で立川の事を考えられていて、思い切った面白い提案などが出てきていると感じた。大きな括りと言えば地域と人の交流について提案がされていて、地域に関しては、北側の農業地域、中間の商業地域と、あとは川がある多摩川沿いの、この3つのエリアを立川の魅力の一つと捉えていると感じた。川沿いのエリアって何かやっているんだっけと考えると、各グループの提案に感心し、同時にそのエリア間の移動をどうしようかというような、これが要するに、これからの課題になってくるのかなと感じた。

あともう一つが、人のコミュニティの問題というのが出ていらして、その中で、今日は萬田さんもいらっしゃるけど、自治会の加入が減っているという、私も如実に感じていることですが、コミュニティがないと言いながらも、ベースになる自治会というのを入らないというのは、これはどういうことなんだろう。そこら辺のところは課題というか、人との流れ、コミュニティなのかな。多分その中に、一つずつどうしていこうかという話が出てくるんだとは思いますが、全部回ってみて、大体課題というのがそういうふうには見えたかなとは思いました。

(松浦副会長)

ありがとうございます。

では次に川口委員、よろしく申し上げます。

(川口委員)

私は商工会議所の代表としてここに来ているので、どうしても、この中でも都市基盤とか産業というところに目を向けがちなんですけれども、立川の、今これだけ繁栄しているよりどころとなる、交通結节点的なところというのが結構語られている。しかも都市の中

に、立川内における交通の在り方みたいなのが、非常に各班で語られているのはちょっと驚きでした。今までのというか、基幹となるような、既存の事業者の大動脈的な交通だけではなくて、マイクロモビリティ的なものも含めた、もう少しきめ細かい移動のニーズ、特にそれは福祉とかにも絡むんですけど、これから高齢化する中で、そういった移動のニーズというのが変わってくるようなところというのが、比較的どの班も取り上げていたのが面白いなというふうに思いました。

立川でやりたい人を応援するとか、立川で創業とかという、立川にイノベティブな人を集めてくるみたいなことの意味というのは、結構語られているところがあって、それは何を持ってくるのかというところがもう一步踏み込めると、面白いなというふうに思いました。あとは、都市機能とシームレスにつながる自然みたいなところの意味、例えば砂川の農地だったり、多摩川という話が出ていて、その活かし方といいますか、一辺倒の、駅前の北口の象徴的な顔ということだけじゃなくて、そういう都市機能とシームレスにつながる自然を持つ立川の強みというのを、結構皆さん考えているのかなという気がしました。

以上です。

(松浦副会長)

ありがとうございます。

それでは次に小林委員、よろしくお願いします。

(小林委員)

自分も交通のほうはたくさん、どの班からも意見があって、意外とこういうふうに皆さん困っていたり、こうなったらいいなというふうに考えられているんだなというのを知る、いい機会になったかなと思いました。また、子育て世代というところで、子どもも公園ですとか、スポーツだったり、球技ができるような公園というのがあんまりないのかなというのを、意見を見て思ったり、手持ち花火とかもそうですけど、そういったものが、子どもたちでも気軽にできるような場所というのがあると、もっと良くなるのかななんていうふうに考えながら見させていただきました。

以上です。

(松浦副会長)

ありがとうございます。

それでは次に田所委員、よろしくお願いします。

(田所委員)

民生委員でございますものですから、特に何か、与えられた課題で全体を見させていただいてというか、一か所ちゃんと話そうとすると、この時間で全部回れとは言われなかったんですけど、回ろうとすると大変相反する感じでしたというふうな1点目の感想と、2点目は皆さんおっしゃっていた部分で、立川をある特定の、今見えている駅の周辺だとか、昭和記念公園とか、そういうことじゃなくて、全体が立川なんだということを、どうやっていこうかというポイントが中心にあったのかな、そういうことをアピールしたいんだということ。

あとはそれぞれ年代ごとにちゃんと、あの一枚にするために相当、論議を引き出しいろいろなことをやってきたのをあの一枚にしたんだらうから、あの一枚そのものというのが、4分で進めるにはちょっと無理がありそうかなってぐらい、1か所、2か所、3か所ぐら

いで話したところでの感想です。そういう意味では、例えば年齢の高い班の方のところは、正直言って、我々が見る将来像って、例えば20年先、30年先じゃないよね、5年、10年だよねみたいなのがあって、何よりも人に優しいというところが、皆さんが言われていた部分が、民生委員としての印象に残ったところです。

以上です。

(松浦副会長)

ありがとうございます。

それでは次に平澤委員、よろしくお願いします。

(平澤委員)

今回パネルを見てということでは、アンケートも含めて考えると、砂川方面だと思うんですけど、やっぱり交通が不便ということがあるみたいですね。そこにトックトックを利用したらどうかとかというのは、結構面白いアイデアかなというふうには思いました。あと、今までのアンケートとか、そうぞう会議のニューズレターに載っているような、今までの過程で載っているような内容が、今回のパネルでは結構なくなっているんですよ。むしろ途中にあったアンケートとか、そういうアイデアとかが、面白いかと思うことが今回載っていなかったの、そのことだけ申し上げると、私もこの間、砂川七番から、五日市街道沿いをずっと歩いたんですよ。そしたら、やっぱり歩道が狭いですよね。そんなようなことがアンケートにも取り上げられていましたし、この会議の途中でも言われたと思うんです。

それと、あともう一つは高齢者の利用ですね。私もそうなんですけど、割と空いている自由な時間がありますが、どこかで活躍したくても、あんまりそういう場所がないというのがあって、低賃金でもいいから、どこかで使ってくれたりするといいかなというふうに思っているんです。それから、この間も電話があったんですけど、ギターをやりたいんですということなんですけど、なかなか初心者から教えるというのが難しくて、そういった方を教える場所とか機会というのが楽に取れるといいと思います。

今回のパネルの中にもありましたけど、立川の情報が伝わりにくいと。それは確かに、私も今回この役を仰せつかって、いろいろと資料とか、実はここに配られている資料も、立川のサイトのほうに載っているのは確認したんですけど、そこに行き着くまでが大変なんです。もうちょっと情報が先に分かりたい。ここにあったなと思って、それを探るともう一つ下の階層になって、また下の階層になってみたいな、そこに行き着くまでが大変なんです。その辺が改善されたらいいかなというふうに思いました。

以上です。

(松浦副会長)

ありがとうございます。

それでは次に福永委員、よろしくお願いします。

(福永委員)

それでは、私も出身母体的に、テーマを各セッションの中から拾い出して見て回ったというような感じで、要は子どもとか学びとか文化という表現があるセッションを中心にみてまいりました。だから他の部分については、時間もなくて見過ごしているかもしれません。まず一つは、見ていて思ったのが、高齢者社会への不安というのが、年齢が高くなるセッションについては多く取り上げられているのかなと思いました。

子育てという表現も出てはくるんですけども、その中でちょうどその中間というか、もうちょっと青少年層、小学生、中学生、高校生の育成とか、そういう、遊び場という表現はあるんですけども、これをコミュニティと結びつけながらこういうことを考えてみましたというのは、なかったのかなというのがちょっと残念ではありました。コミュニティという表現を使われているセッションは随分あったんですけども、定義は非常に多いとは思いますが、あるところで、これは地域ということを前提としていますか、それとも、いわゆる目的を持った団体ということ想定しているんですかとお聞きしたところ、まずは地域からだと思っておりますというような表現もあったので、ちょっと安心したところがあるんですけども、あとはこちらの分野別計画の、複合的なものでの提案発表というのが多かったような気がします。

一番気になって見ていたのが、先ほど申し上げましたように、コミュニティというキーワードを取って回ってはいたんですけども、その継続性とですとか、今後に向けての将来像、新たなシステムといったところは、あまりそこを考えていらっしゃるところはなかったのかなというふうに思っていました。

以上です。

(松浦副会長)

ありがとうございます。

それでは萬田委員、よろしくお願いします。

(萬田委員)

それでは、私は自治会連合会の会長ということで、先ほどの報告会の発表の感想を申し上げたいと思います。自治会連合会といたしますと、安全安心で住みよい地域づくりに努めていくということが一つの目標でございますので、そういう観点からも見させていただいたということでございます。そういう中で地域のつながり、また、人が行き交うまち、それからコミュニティ、相互理解でつながるまちとか、あとは市民活動の活性化で、地域の底力を感じさせるようなまちづくり、そしてみんなの顔が見える、助け合えるようなまちということで、どのブースも地域のつながりというものが発表されておりましたことは、大変、自治会連合会といたしましては、地域活動に御理解をいただいているなというふう感じたところでございます。

もう一点は、市内の飲食店利用者のクーポンの発行というのがございました。これにつきましては、私どもの自治会連合会といたしましても、災害に強い地域づくりのための絆カードを発行してございまして、日頃については、この絆カードによって、立川市内の企業・商店で、約130の商店・企業に御協力をいただきまして、優待サービスの割引ができるという制度を設けていますので、これは非常に市民の皆さんには好評でございまして、この充実を図っていくというのは当連合会の重要課題の一つでもありますので、一番若い人にこの発表があったということは、やはりこういう飲食の利用に対しての興味があつて発表されたなど、こういうふう思っております。

結びになりますけれども、地域社会がさらに発展していくためには、こういうコミュニティの向上を図っていくということが、さらにコロナ禍の以後、必要性が高まっておりますので、そういう点について発表がありましたことは大変ありがたく思っております。

以上です。

(松浦副会長)

ありがとうございます。

次に甲野委員、よろしくお願いします。

(甲野委員)

甲野と申します。よろしくお願いします。

時間内でなかなか厳しかったんですけど、全て拝見をして、いろいろとディスカッションさせていただきました。最初に思ったのは、皆さん、やはり開発思考だなというのが非常に面白かったなど。ダウンサイジングというのが言われている中で、空港を造ったりとか、新幹線を造ったりとか、広域連携が年齢が高い班から聞かれた。これはバブルの影響なのか、なかなか面白かったです。

一方で、それは経済的には実現できるかもしれないですけど、これからの時代、本当に持続可能かという、その視点が全くなくて、例えばここにも書いてある、SDGsの観点とかが全く抜けている。では環境はどうして入れているんですかという、まちの魅力をアップするための環境という捉え方、利活用ですね。だから、農地を利活用して立川の魅力をアップする、自然、昭和記念公園をさらに目立たせるというようなことしか出てこないのが、ちょっと不安に感じました。一個もないのかなと思ったら、最後のG班に自然エネルギーという言葉が出てきて、やっとそこで脱炭素という言葉が少し聞こえました。

要するに、市民の意見から出てこなかったから入れないではなくて、脱炭素というのは政府のこれからの方針だし、全世界が取り組む課題なので、やはりそのところには、重点的にこのところでも入れていかなければと、あえて私はそう思った次第でございます。

以上が感想でございますけど、よろしくお願いします。

(松浦副会長)

ありがとうございます。

それでは、次は片岡委員。

(片岡委員)

片岡です。私も医療系なんで、福祉・保健のところを重点的に見させていただきました。それで、子育てと高齢者という問題が出てくると思うんですけども、それぞれ案が、子育て優遇とか高齢者のタクシーチケット配布とか、そういうところでいろいろ出て、いろいろ案があるんだなと思いました。障害者のことも書かれていました。いずれも支援する形の話だと思うんですけども、これはいいと思います。

それで、医療系として特定検診、そう書かれていなかったんですけど、気になったのが、特定検診をもっと受けてほしいとか、歯のほうなんですけど、それも成人健診をやっているんですけど、そういう言及が全く書かれていなかったんですね。検診も、立川は確か受診者数が少ないですね。あとは感染症ですね。新型コロナのそういう医療体制も、いつまた発生するか分からない、新興感染症について、書かれていなかったことばかり言っていますけど。

あとは防災に関しても、三師会で今話し合っているんですけど、立川市内の5つの病院があるんですけど、その門前に緊急医療救護所を設置することを、今考えているんですけども、なかなか進まないんですが、そういったことも進めていかなきゃいけないというふうに思っています。それぞれいろいろな、南北の交通渋滞とか、ああいうのも気になるんですけども、交通のことを、モノレールの料金をもっと安くとか、そういう意見はい

いなと思いました。

以上です。

(松浦副会長)

ありがとうございます。

では次に篠原委員、よろしくお願いします。

(篠原委員)

気付きというか、A班を見ていて、外国人のお子さんの支援みたいな話が出てきています。1回目も聞こうと思ったんですけど、外国人住民って、立川市はどれぐらいいるんだろうというデータが、住民基本台帳というか、人口の中でお示しがまだないような気がしているので、そこは知りたいなという気はしております。あまり大学はないなというか、これだけ栄えている市がないんだなというふうに思います。

専門というか、デジタルの分野をやっているんで、そういう観点からいきますと、市民の方々ってやっぱり双方向のコミュニケーション、情報発信を求めているんだなというのがありまして、よく市役所から情報が送られてきているんだけど、市民の情報も皆さん届けたいという、仕組みがないという話があって、なるほどと思ったんで、そこにデータがうまく円滑に流通できるような仕組み、システム、こういったものが要るんだろうなと思いました。転入届で同時にダウンロードできる、そういう販促的なサービスも求めていращやるので、そういうところも必要かなと思いました。

あと、皆様のところで御指摘もいっぱいありましたけど、モビリティ、交通手段のことをよく言われていたので、特に交通量の少ないような道路、都市と農村を結ぶような道路、こういったところはもしかすると、今風に言うと自動運転とか、そういったモビリティを使うのも面白いかなと思いました。あとはシリコンバレーの発想もあったので、これも今風に言うとAIとか、AIはこれから非常に息の長いテーマになってくると思うので、そういうものを集結、集積をやっていけばいいのかなと思いました。

以上です。

(松浦副会長)

ありがとうございます。

それでは最後に辻本委員、よろしくお願いします。

(辻本委員)

私自身が子育て世代で、子どもがまだ小さくて、小学生と保育園児なんですけど、ということと、あとはお仕事柄、先ほど申し上げたみたいに、スクールロイヤーですとか、いじめ問題対策委員会とか、行政の仕事をしながら、子どもの不登校支援みたいところをかなり関わって仕事をしている関係があって、子どもの観点でいろいろ書いていращやる場所というのは気になるなと思いながら拝見していました。

先ほど来出ている子どもの遊び場、ボールが使えるところとか、確かに手持ち花火をやる場所がないとか、そういう遊び場というのが本当にできたらいいというのは、私も本当にそういう気持ちがあるなと思いながら、そうですねというふうに見ていましたし、あとは不登校支援の観点から、寺子屋活動を拡充したいというのがありまして、公民館とか、そういう場所を使って、ボランティアの方を入れて、塾に通うのは金銭的に余裕がないなんていうお子さんたちに向けて、塾に近い学習支援というのをやっている活動があります。

そういうのを、自治会ごとなんですかね、公民館を使ってやっているところもあるし、やれていないところもあるしというところがあるので、ここにもありますよ、こういう活動をやらたらどうですかというところで、それを広げていけるといいなというお話もありましたし、実際それが、なかなか金銭的にお金がなくて、ボランティアでというところがあるんであれば、そういったところに予算をかけて、不登校支援だけではないと思うんです。学校には行けているけれども、受験に向けて塾に行くのは金銭がつかないとか、そういうお子さんもいると思うので、そういったところに予算を拡充してやっていくというのも、一ついいんじゃないかなというふうに思いました。

あと、子どもの視点からこんなのがありましたというので、駅の周りは治安が悪いというのが、子どもが気になるという発言があったので書きましたという班があって、その中で、治安が悪いというところを、例えば街灯を増やしたら、もう少し駅周りが明るくなっていくとか、路上喫煙をされる方が多くてちょっと嫌だなという意見がお子さんからあったので、逆に喫煙所を増やしたら路上で吸う人が減るんじゃないか、そういうところでやってみたらどうでしょうかとか、そういう意見も出ていて、その辺も予算をかけてやっていくという中ではいいんじゃないか。子どもが暮らしやすいまちという都市整備というところでは、いい視点だなというふうに思って拝見していました。

それ以外の視点のところというところ、先ほどから出ている、農業地域と都市部をつなぐという話があったと思うんですけど、その農業地域の活性化、活用の仕方として、例えば農業体験とかそういうもので、都市部の人に来てもらって、そこに人の流れをつくるというのがいいと思うんですという話がありながら、ただ、これも先ほどから話が出ていますけれども、その交通網があまりよくないんですよ。そこをつなぐような交通の形を整備できたというところでお話が出てきているのも、そうですねと思いましたが、あとは、そういう農業地域で生産されているものを使って、これも貧困世帯とかというところを考えているんだと思うんですが、そこで生産されたものをフードバンクとか、お子さんたちに活用していくとかというところで、できたらいいなという話もあって、それもすごくいいんじゃないかなというふうに感じました。

私からは以上です。

(松浦副会長)

ありがとうございます。

それでは、他の委員の御意見をお聞きして、追加の意見等があればよろしくお願ひします。

では、一言だけ気になったというか、皆さんの意見を聞いていて、やはり地域の交通ということに関して、篠原委員が自動運転みたいな話をされていまして、自分は福井県永平寺町というところ出身なんですけれども、ちょうど永平寺町が自動運転の取組みみたいなものを具体的に始めていて、そういうプロジェクトを立ち上げて、そういったことをやっているって話を聞きまして。ただ、立川と永平寺だったら交通量が全然違うのと、高齢者の多さとかということも大分違うんで、福井県の永平寺の場合だったら交通がそんなに激しくない、ただ、一方で病院までの、いわゆる足ってやつですね、交通というのが非常に厳しいというところで、深刻さが大分違うんですけれども、ただ、長期的に日本全体が高齢化していく中で、そういった自動運転みたいな形で病院とつないでいくとか、そういった形というのは検討に値するのかなという印象は受けました。

ほかに何かありますでしょうか。大丈夫ですか。

4 その他

(松浦副会長)

それでは最後の次第4、その他ですが、議事録の公開と次回の開催について、事務局からお願いいたします。

(渡貫企画政策課長)

ありがとうございました。

本日の市民ワークショップ報告会、お時間が限られた中で本当に、大変申し訳なかったんですけど、いろいろありがとうございました。今も御意見があったように、交通の面であったりとか、いわゆるコミュニティの部分であったりとか、あとは医療の部分であったりとか、情報系、子育て系と、いろいろ課題のほうをまた御意見いただいております、次回がそういった本格的な御議論をいただくような機会としてございますので、今御示唆いただいたところを含めて、整理した中で御議論に臨んでいきたいというふうに思っております。

それでは最後に、次第の4のその他のところにつきまして、資料3、資料4を御覧ください。

こちらは第1回審議会の議事要旨と議事録になってございます。こちらは先日委員の皆様にもメールで御送付をいたしまして、御確認をいただいたものとなっておりますが、追加での修正がなければこちらで確定したいと思いますのですが、よろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

(渡貫企画政策課長)

ありがとうございます。

(福永委員)

自己紹介の5ページの福永委員というところで、子ども会云々とかがきて、言葉足らずだったので、「ずっとこのような活動を続けています」って、「こんな」ってあんまりいい表現でもないし、すいません。

(渡貫企画政策課長)

言い回しを少し変えさせていただくということでございます。

よろしいでしょうか。

では訂正させていただきます、第1回の議事録のほうを確定させていただきたいと思っております。

今後、市のホームページや市政情報コーナーで公開をしていきたいと思っております。

続きまして、次回の審議会についてでございます。次回の予定は第3回となりますが、12月4日月曜日の午後7時からの開催となります。会場は立川市役所2階の209会議室となります。会場の詳細につきましては、本日お配りしている第3回長期総合計画審議会会場、立川市役所案内図を御参照ください。

また、第3回審議会の資料は事前に郵送させていただきます。事前にお知らせをいたしますとおり、第4回の審議会は、来年の1月22日月曜日の午後7時からというふうになってございますので、御予定のほどお願いいたします。

説明は以上となります。

(松浦副会長)

では、以上で本日の議事は終了しました。

それでは第2回立川市長期総合計画審議会を閉会いたします。本日は御多用のところありがとうございました。

— 了 —